

報 告

日本福祉のまちづくり学会第15回全国大会

聖学院大学 人間福祉学部 野口 祐子

1. 第15回全国大会概要

大会テーマ :『リハビリテーション発祥の地“北九州”
からひとにやさしいまちづくりの提言
「産業」「福祉」「環境」のこれから』

大会長 : 菊池重昭 (西日本工業大学学長)

実行委員長 : 竜口隆三 (西日本工業大学教授)

開催日 : 2012年8月25日(土) ~ 27日(月)

開催場所:

メイン会場 : 西日本工業大学小倉キャンパス
シンポジウム会場 : 北九州芸術劇場大ホール

2. プログラム

・研究発表 : 口頭発表 122編、ポスター発表 20編

・研究討論会 :

①「災害と福祉のまちづくり

—東日本の事例を通して—」

②「健康・医療・福祉とまちづくり」

・交流会

・市民公開シンポジウム :

「まちづくりの将来像～社会参加を目指して～」

第1部 基調講演

①「バリアフリー施策の現状と課題」 国土交通省

総合政策局安心生活政策課長 山口一朗氏

②「ひとにやさしいまちづくりの推進」 北九州市

保健福祉局障害福祉部長 古賀厚志氏

第2部 パネルディスカッション

「公共トイレの使いやすさを目指して」

・ナイトツア : 北九州市街地の名所旧跡巡りと小倉
の郷土料理

・見学会 : サンアクア TOTO・安川電機の見学と
門司港レトロ散策

・展示会

3. 内容

研究発表は、「まちづくり」、「交通」、「教育」、「建築・住環境」、「移動・外出」、「地域社会」、「観光」、「案内・誘導・情報」、「福祉機器」、「防犯・防災」などのセッションに分かれておこなわれた。北九州という土地柄か、トイレに関する発表も多く、またユニバーサルデザインや東日本大震災をテーマにした発表も多かった。全体的に建築、交通、福祉機器など工学分野の発表が主であったが、学際的な学会として、ソーシャルワークや教育、市民参加など福祉のまちづくりのソフトをテーマにした発表や、また、障がい当事者による発表も見られた。

研究討論会は東日本大震災をテーマにしたものがあり、被災地の障がいのある人たちの生活の課題や視覚障がい者と情報の問題などについて報告があった。研究発表、研究討論会の内容として、昨年より東日本大震災に関するものが増え、被災地での調査、研究が進んでいることがわかった。

市民公開シンポジウムの後半は、北九州大会ならではのテーマ、「公共トイレの使いやすさを目指して」と題しておこなわれた。行政やトイレメーカー、建築関係者がこれまでの取組やその考え方などを発表、障がいのあるパネリストはトイレに関するそれぞれのニーズを語った。様々な機能を盛り込んで利用者が増え支障を来している多機能トイレに関し、一般トイレも含めて、その機能を分散していくこと、多様な意見を集約する必要があることについて、認識を共有できたシンポジウムだった。

また、毎年、その土地ならではの趣向を凝らした見学会は大変好評であるが、今回は工業のまち北九州らしく製造企業(サンアクア TOTOは障害者多数雇用事業所)の見学と観光名所「門司港レトロ」エリアの散策で、盛りだくさんな内容だった。

暑い季節だったが、海に面した北九州市は風が心地よく、とてもさわやかだったのが印象的である。

聖学院大学 人間福祉学部

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1